



会 報

第29号

平成8年8月

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025



1994年, ガラス: 宙吹き, ガラス粉溶着による着色, 49.8×25.1cm

新収蔵作品 ジョーイ・カークパトリック/フローラ C. メイス 「フルーツの静物」

思わず手を伸ばしてしまいそうな実物大のりんごや梨、桃、いちご、びわ——まるで本物のような形も色も肌合いも、すべていわゆる宙吹き技法を中心とするホットグラス・テクニックを駆使してつくりあげられている。

アメリカ西海岸シアトルですでに十数年にわたって共同で制作活動が続けるカークパトリックとメイスは、ガラスでどのようなものでも表現できる完璧なテクニックを手中にしている。ヨーロッパほどのガラスの伝統をもたなかったアメリカで、芸術家たちが自由な発想と果敢な実験精神によってまったく新しいガラス造形の可能性を探り始めたのは1960年代初頭のことであった。そうした動向は期を同じく

して世界各地で広がりを見せることになる。ガラスを扱う技術は長い間、工場で何年にもわたる修行によってのみ習得できるものと信じられてきた。しかし、ガラスという素材に関心を持った多くの芸術家たちの熱意あふれる挑戦は多くの不可能を可能としてきた。その中でもカークパトリックとメイスは高度な技術を自在に扱い、技とその豊かな芸術的発想を密接に結び付けて質の高い表現を実現し、国際的にも高い評価を得ている。

三次元の静物画ともいべき意表を突くようなこの作品は豊かな自然の恵みを余すところなく伝えていく。それはふたりの最大の関心である自然と人間とのかけがえのない関係を示しているのである。

コンサドーレ か アルテピア

ビジョン委員会代表 木路 毛五郎

平成7年5月、美術館協力会の中にビジョン委員会なるものが制定された。協力会も20年を迎える。活動にマンネリズムを自覚。ここで一つ活性化を、と言うのが理事会の意向なのだろうが、なにをやればよいかわからないままに、世話人を引き受け、ともあれすべりだしている。

委員会は、岩田さん、浦田さん、小川さん、和田さんの4人の理事。亀酒井さん、田村さん、長峯さん、山口さんのボランティア部長さんに私を加えて計9名で構成されている。第一回の会合は、平成7年6月6日、道立近代美術館会議室で行われ、「会の目的」と「役割」について討議。目的は、協力会の中、長期的展望にたった「夢」づくりであり、役割としては会長の諮問機関として位置づけられるもので、実行部隊にはならないことになった。

協力会にとって、今、なにがいちばん必要か。と言えば、中長期的展望にたったビジョンづくりとはそぐはない議題になってしまったが、とりあえず協力会の長年の懸案である“会員の大幅増”の対策について協議された。

「社団法人北海道美術館協力会」は20年近くも活動をしていながら、今一つ知名度が低い。原因の一つとして会名が堅いとも考えられるので、道民に親しまれそうなネーミングを「愛称」としてつくることになった。一般公募の結果全国から372点の応募があり、横浜在住の、

為我井敏雄さんが応募された——アルテピア——に決まった。意味するところは、イタリア語で、アルテは“芸術”、ピアは、“架け橋”“友人”を意味する。まさに協力会が標榜とするところで、耳ざわりもトレンドィで快く、選考委員、全員一致で決定した。

北海道にJリーグをめざして、プロのサッカーチームができた。チーム名はコンサドーレに決まった。ドサンコの逆読みで、北海道人にはたちまち覚えられ、親しまれる。よいネームを付けたものである。つけた、と言うよりも、みつけた、と言ったほうが適切かもしれない。ネームを決めることは本当に難しい。企業では社運さえ賭ける場合がある。

【アルテピア】・・・実をいえば、これに決まるまでには、決して容易ではなく、満場一致などというものはなかった。

しかし、決めました。定めてしまえば不思議なものでもいとおしくなるものです。社団法人北海道美術館協力会は、今後、アルテピアを愛称として全面的に打ちだし、北海道はもとより、全国に知られるものにしたいと思います。

さて、ビジョン委員会としては、このアルテピアをつかう機会をどれだけ多く持つことが出来るか、アルテピアを生かすも殺すも一つにそれにかかっているわけです。



たみが い
〈為我井敏雄さん〉

- ・横浜市在住
- ・1953年生まれ
- ・ホテル勤務

北の大地に、夢をはせて・・・

協力会の愛称募集に入選された為我井敏雄さんに「アルテピア」に託す思いをお聞きしました。

現在は、脚本家になる夢を持ちながら、ホテル勤務を続けておられる由、日ごろから美術に関心を持っていて「公募ガイド」で知ったこの募集に応募されたそうです。

入選の報に、御家族一同大喜び。まだ見ぬ北海道に、夢をはせておられます。

創立20周年記念事業

美術館協力会賞・美術“のみの市”など計画中

専務理事 小川 亨

本会の創立20周年記念年を明年に控え、その準備のため昨年12月に設置した「20周年記念事業検討委員会」から、3月26日の理事会に、現在折衝中の事業を除いて次の9事業について答申があり、この答申を受けて4月25

日の理事会で、これらの事業の具体的な推進計画の策定のための「20周年記念事業推進委員会」を設置し、成案を新年度の総会に提案すべく鋭意作業を進めております。

1 アート・フェスティバル事業

- **北海道立近代美術館所蔵名品展（仮称）の共催**
近代美術館と共催で、近代美術館の全館を使用して所蔵名品展の開催を予定しております。
- **20周年記念特別講演会の開催**
中央から著名な講師を招いて、市内の中心部の会場において講演会の開催を予定しております。
なお、この講演会の開演前に「本協会の20年の歩み」のスライド上映を行って、本協力会のキャンペーンを行うことを予定しております。

- **美術館協力会賞の贈呈**
「学生全道美術展」の優秀作者1名に美術館協力会賞の贈呈を予定しております。
なお、この受賞者には、本会が毎年実施している「海外美術研修旅行」に無料で招待することを予定しております。

- **美術のみの市の開催**
大通公園など戸外において、50店程度を開設し、美術品の「のみの市」の開催を予定しております。

- **子供の青空教室と作品展の開催**
戸外において、子供の青空教室を開き、あわせてこの作品の展覧会を市内の中心部において開催することを予定しております。

- **美術秀作映画会の共催**
札幌映画祭とタイアップして、美術秀作映画会の開催を予定しております。

- **20周年記念パーティーの開催**
毎年開催している「集い」を拡大して、市内の中心部の会場で、特別記念パーティーの開催を予定しております。

2 その他の事業

- **永年協力表彰の実施**
本協会の事業および運営に20年または10年以上協力していただいたボランティア活動員ならびに20年在任の役員の皆さんの表彰を予定しております。

- **北海道立近代美術館所蔵名品図録（仮称）の発行協力**
近代美術館が開館20周年記念事業として発行を予定しているこの図録を購入し、本会の売店で販売することを予定しております。

美術館ニュース

北海道立近代美術館

北海道・今日の美術Ⅴ 語る身体^{からだ}・10人のアプローチ
[10月26日(土)～12月1日(日)]

今日的テーマにより北海道美術を新たな角度からとらえ、その現代の様相を紹介するビエンナーレ方式のシリーズ展の5回目。

人間性が疎外されがちな現代社会にあって、近年、自らの存在根拠ともいうべき「身体」に関心を寄せ、作者自身の身体性を表現の軸としたり、身体を新たな視点でとらえ直すことで見るものに人間存在の確かな手ごたえを感じさせる作品が目立っています。今回は、身体をひとつの出発点に多様な表現を展開する作家たちの作品を紹介します。

A★MUSE★LAND '97 ゴースト&モンスター
[12月7日(土)～1月26日(日)]

子どもたちに美術鑑賞の楽しさを味わってもらおうアミューズランド。第5回目を迎える今回は、古今東西の美術に表現され、最近の怪談ブームによって子どもたちにも人気の「ゴーストとモンスター」をテーマに、さまざまな美術作品を紹介します。

美術作品に表現された怪奇なイメージや幻想の世界を通じて、美術の面白さや魅力だけでなく、それを生み出した人間の想像力の世界、その奥の深さについてもきつと関心が深まるでしょう。

小野竹喬展 [2月1日(土)～3月16日(日)]

笠岡生まれの小野竹喬(明治22年～昭和54年)は、明治36年に京都の竹内栖鳳に入門、以後京都市立絵画専門学校での研鑽を経て、大正期には国画創作協会で活躍しました。さらに渡欧を経て西洋絵画を摂取した後、日本画独自の風景表現の創造へと向かい、内面深く自然をとらえた詩情あふれる風景画を生み出しました。

本展では、優品を多数所蔵する笠岡市立竹喬美術館の作品を中心に、代表作を含む初期から晩年までの約90点によって竹喬芸術の全貌を紹介します。



小野竹喬「樹間の茜」1974年(小野竹喬展)

北海道立旭川美術館

平成8年9月以降の展覧会について

プラハ国立美術館所蔵浮世絵展

[9月14日(土)～10月13日(日)]

東ヨーロッパ諸国には、浮世絵のコレクションが散在していますが、未調査のものも多く、今後の調査と公開が待ち望まれています。今回、ご紹介するチェコ共和国のプラハ国立美術館の浮世絵コレクションは、最近の調査でその全容が明らかになったもので、3,000点を数える作品の中から選りすぐった178点の作品が里帰りし、日本で初公開されます。主な作家としては、鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、東洲斎写楽、勝川春章、歌川豊国、歌川国貞、葛飾北斎、歌川国芳、歌川広重などがあげられるほか、初期浮世絵の希少な作品も含まれています。この機会にぜひ浮世絵の幅広い魅力をお楽しみ下さい。

木の造形—旭川大賞展 [10月26日(土)～1月12日(日)]

当館では、「木の造形作品」を作品の収集、展覧会の企画の一つの特色としています。木を素材とした彫刻、立体造形は、作家の数も多く、現代日本で多彩な展開を見せています。この展覧会は、国内在住の若手、中堅作家たちによる、木を素材とした彫刻、平面、立体造形のコンペ展です。25人の作家を作家選定委員会で指名し、近年、新作を出品してもらい、賞審査委員会を開催して優秀作品を顕彰します。出品予定作家25名の中には、北海道在住、ゆかりのすぐれた作家が7人含まれているほか、全国各地で活躍する作家が多数含まれています。大作、力作の出品が期待され、大賞(1名)、優秀賞(4名)を射止めるのはどの作家か、今から期待が膨らみます。「家具のまち」「木工のまち」「彫刻のまち」として知られる旭川を発信地として、木の造形のみならず、国内の現代美術の動向を幅広く紹介する活気ある展覧会となるでしょう。



東洲斎写楽「三代瀬川菊之丞の田辺文蔵妻おしづ」

北海道立函館美術館

1 「近代ヨーロッパ絵画の巨匠たち ドイツ・フォルクヴァング美術館展」 [8月4日(日)~9月8日(日)]

ドイツのエッセン市にあるフォルクヴァング美術館はすぐれた近・現代美術の収集で世界的に知られています。今回はその有数のコレクションの中から、マネ、ルノワール、ゴッホ、セザンヌ、ゴーギャン、カンディンスキー、ダリ、マグリットなど近代美術の巨匠たちの作品を網羅して、19世紀後半から20世紀にかけての最も重要な時期にあった美術の流れを名作66点によりたどりま



す。今回はその有数のコレクションの中から、マネ、ルノワール、ゴッホ、セザンヌ、ゴーギャン、カンディンスキー、ダリ、マグリットなど近代美術の巨匠たちの作品を網羅して、19世紀後半から20世紀にかけての最も重要な時期にあった美術の流れを名作66点によりたどりま

フィンセント・ファン・ゴッホ
「アルマン・ルーラン」1888

2 「書と詩歌／抒情の世界」

[9月14日(土)~10月20日(日)]

近代詩文書の提唱者で自らも優れた詩歌をつくる金子鷗亭。その詩歌を集めた「和顔愛語」を題材に、近代詩文書作家がそれぞれの流麗な手業を競います。

3 「現代美術と文字」 [10月26日(土)~12月8日(日)]

今日の美術においては、文字を作品に取り込むことはもはや特に驚きに値しないことになってきていますが、そのあらわれ方は実に多様です。今回の展覧会では、不断に文字に取り組んでいる作家たち荒川修作、白川昌生、平林薫、刈谷博、宮前正樹、石川九揚らの作品を、特にハンド・ライティングに焦点を当てて紹介します。

4 「マリー・ローランサン展」

[1月7日(火)~2月15日(土)]

マリー・ローランサンは、淡い色調とやわらかな形態のうちに、生涯にわたり永遠の少女像を追い求めたエコール・ド・パリを代表する女性画家です。本展では約150点の作品により、その独自で典雅な画業を振り返ります。

その他、ビエンナーレ形式で開催される「北海道・今日の美術」や、ミュージアム・コレクション「リアリズムの系譜・道南版」、同「洋行からのインスピレーション」など、道内・道南の美術をさまざまな切り口で紹介していく予定です。

北海道立帯広美術館

平成8年度後半の展覧会事業についてご紹介します。

まず、8月24日(土)から9月29日(日)までは、「ユトリロ展」を開催します。1883年パリに生まれたモリス・ユトリロは、エコール・ド・パリを代表する画家の一人として活躍しました。パリの街並みを重厚な筆触で詩情豊かに描き出したその作品は、今日なお多くの人々に親しまれています。この展覧会ではユトリロの初期から晩年に至る作品95点を紹介し、波乱に満ちたその生涯と彼の芸術を回顧します。

ついで、10月8日(火)から11月17日(日)までは、「富士美術館名品展」を開催します。富士山の裾野、静岡県富士宮市にある富士美術館は日本美術の優れた作品の収集・保存により知られています。今回の展覧会では、富士美術館コレクションの中から絵画、書蹟、陶磁器、漆芸品、計75点を紹介し、日本の伝統美の世界を御覧いただけます。

12月7日(土)から1月12日(日)にかけての道立美術館4館による共同企画「北海道・今日の美術」を挟み、1月18日(土)から2月16日(日)までは、帯広美術館開館5周年記念企画として「黄金時代のポスター芸術」を開催します。帯広美術館は〈プリント・アート〉を収集の一つの柱としています。その関連から19世紀から20世紀にかけてのフランスのポスターの収集に努め、現在では200点近くにおよぶ作品を収蔵するまでになりました。それらのポスター・コレクションの中よりロートレック、ミュシャ、カッサンドルら代表的な作家の作品約120点を紹介し、ベル・エポック期に大きく花開いたポスター芸術の世界を振り返ります。



モリス・ユトリロ
「コミュニオン（聖体拝領）の少女」1912年頃

美術館ニュース

北海道立三岸好太郎美術館

8月1日から9月29日は、所蔵品展「三岸好太郎の世界 色彩の詩情（ポエジー）」を開催しています。所蔵品展は、当館の所蔵する三岸好太郎作品をさまざまな角度から紹介するものですが、「色彩の詩情（ポエジー）」では三岸の独特な色彩感覚に注目します。明暗の色彩の絶妙なコントラストで印象深い作品、白と黒のモノトーンのみによって限りなく豊かなイメージを表した作品など、表現技法にも着目しながら、三岸の色彩の特徴とそこから生み出される作品の味わいを探ります。

10月5日から11月24日は、特別展「北の夭折画家たち—大正・昭和初期の青春」を開催します。日本の近代洋画では、しばしば若くして世を去った画家たちの個性あふれる活躍が重要な意味を担っています。北海道ゆかりの画家の中でも、絵画に情熱を傾け、ひときわの輝きを放ちながら、画業半ばに早世した者が多くいました。三岸好太郎、俣野第四郎、石野宣三、小山昇、山本菊造、山田義夫ら、いずれも豊かな才能に恵まれながら20～30代の若さで世を去った画家たちが、自身の短い生命を託すように描いた、みずみずしい感性の世界を紹介します。会期中には、夭折の作曲家を特集したコンサートも予定しており、絵画と音楽にこめられた若き思いの響き合いを、ご鑑賞いただければと思います。

11月30日から平成9年3月30日は、所蔵品展「三岸好太郎の世界 ロマンと抒情の画家」を開催。三岸好太郎の生涯の画業を館蔵の代表的作品でたどります。画風の多彩な変化の内にも、一貫して制作の底にあり続けた詩的な感性と想像力が醸し出す魅力を紹介します。

火～金曜日（祝日を除く）の午後1～3時には、展示室内で三岸好太郎作品の解説（ボランティア解説員による）を行っています。同時時間帯に随時受け付けておりますので、ご希望をお申し出下さい。また8月から平成9年3月まで、毎月1回、美術館コンサートまたはミニ・リサイタルを開催の予定です。10月（中旬予定）、12月21日、2月（中旬予定）以外は、いずれも月末の土曜日の午後2時から行います。会場が展示室内のため同日の観覧にはご不自由おかけしますが、予めご了承のほどお願いいたします。

財団法人 札幌彫刻美術館

平成8年度夏の特別展として、8月4日（日）から9月29日（日）まで、「第8回北の彫刻展」を開催します。

「北の彫刻展」は、北海道を活動の拠点に活躍する彫刻家による作品を広く紹介する展覧会として隔年で開催してきました。出品作品は、伝統的な具象彫刻から、抽象彫刻、インスタレーションや現代美術まで、材質、分野、表現方法にとらわれない、作家の自由な発想による彫刻展として回を重ねてきました。

日ごろ一堂に会する機会の少ない作家の作品が、展示空間で出会うことは、お互い影響がしあい、独特な調和と緊張感を見せてくれます。これは、作家がこれまで追及してきた造形の、今・現在を紹介する展覧会だからこそ可能なのです。

また、毎回質の高い力作を、出品して下さる作家の方々の展覧会に対する愛情とともに意気込みが展覧会を支えてきたといえます。

2年振りの作品との出合いは、どのように展開するのでしょうか。これまで培ってきた個性を前面に表出させるのか、それともまったく違った境地を見せてくれるのか。各作家の2年間の軌跡を、作品が語ってくれることでしょうか。

このような見方ができるのは、継続して開催する展覧会ならではの楽しみといえます。どうぞ、ご期待ください。

今回は、25名の作家による最新の作品約30点を、本館及び庭園に展示します。

「北の彫刻展」終了後は、10月5日（土）から3月30日（日）まで平成8年度後期 収蔵品展を開催します。

新たな視点で本郷新の作品をご紹介します。



米坂ヒデノリ
「あしおと」



田沼淳一「風をよぶ」

芸術の森美術館

9月8日まで、「北の創造者たち'96 平面の断章Ⅱ～自立する素材と形」を開催しています。北海道の現在の美術の動向を道内在住の若手・中堅の作家により紹介していく「北の創造者たち展」は、今回で6回目を迎えます。このシリーズでは当初、彫刻を素材別に紹介していましたが、前回からは平面作品を取り上げており、今回は、平面的作品の素材という物質的な面に関わりを見せる7人の作家によって、展示室いっぱい作品が展開されています。

展示されている作品を見て、これが平面作品と呼んでいいのかと思うかもしれません。それがこの展覧会のひとつのねらいです。私たちが何を基準に「絵画」や「平面作品」とジャンル分けしているかをもう一度考えてみることで、さらに言えば、絵画を成り立たせている基本的なものについて物質的な面から考え直そうというものなのです。

ふつう私たちが絵画に接した時、そこに何が描かれているかにまず目がいきます。その素材となっている紙やキャンバス、そして顔料などの物質的な面は、陰に隠れてあまり意識されません。けれども、この展覧会に展示されている作品はかなり異なっています。絵画では色

を表す役目に徹している顔料そのものが作品の主役になっています。紙やキャンバスのうえにあるはずの絵の具の層が、それ単独で広がりを持っています。または、紙やキャンバスの上に引かれるはずの線が、壁や空中に縦横無尽に引かれ、線だけで存在しています（実はこれは糸なのですが）。さらに、支持体の厚みを強調した作品や、壁に飾られることを否定して、空間に張り出したり、床におかれた作品もあります。こうした作品は、物質としての平面作品、物体としての平面作品を私たちに強く印象付けます。井桁雅臣、市川草介、大滝憲二、長内利尚、小林英樹、高橋俊司、林弘亮という二十歳代から五十歳代の異なる世代の作家達が、それぞれの方法で物質と関わったエネルギー的な作品を是非ご覧ください。

続いて9月14日から10月27日まで「クラフト全国公募展'96」を開催します。3回目の今回は、前回は大幅に上回る930点以上の作品が全国から集まりました。展覧会では、その中から選ばれた暮らしを豊かに演出する優れたクラフトを展示します。

今年10周年を迎えた札幌芸術の森は、このほかにもさまざまな事業を予定しています。

これから

美術館協会の活動が始まって、まもなく20年という現在、会員数は法人・

個人会員合せて1,446人であるが、充実した活動を展開するには不十分な会員数であり、会員の拡充は急務となっている。例えば、札幌市の人口と会員数との対比から考えても、協会の知名度は低くその向上を図る上で、社団法人北海道美術館協会という名称は堅苦しいということになり、今回「アルテピア」という素晴らしい愛称が誕生した。

協会を紹介するリーフレットも、この愛称「アルテピア」を受けてイメージアップを図るべく作成準備中で、この秋にも完成予定であり、ま

た、会員証や日常使用の各種封筒、ボランティア各部の文書類等々あらゆる機会を利用し活用する計画である。この愛称「アルテピア」が親しまれ、一日も早く馴染むよう願っている。

また、来館者用の駐車場も広く開放（従前の倍増のスペース）されたことに加え、4月から11月までの8ヶ月間、日曜と祝日に限り西17丁目の「美術館通り」が路上駐車可能となった。

そして、協会事務局が美術館のすぐ裏に移転、広がる等々、様々な状況が変化中、今後の協会の活動が注目される昨今である。



事務局看板図

信州路美術の旅に参加して

山 本 晋



碌山美術館の
大野学芸員(右)と

私の場合、どこかに行きたいという思いは、現状への漠然としたあせりやいらだちからの脱出とかかわっています。そしてそれは、素晴らしい美術品に出会いたいという願いと重なって、間歇的に吹き上げて来ます。今回の旅の案内

はまさにこのタイミングで受け取りました。以下4日間の私の美の体験の点描を全く恣意的に綴って申しつけの旅行記に代えさせていただきます。

いつか必ず訪ねたい。でも期待が裏切られはしないかという危惧がつきまとう美術館があるものです。今回も碌山美術館と共に信濃デッサン館がそうでした。しかし、この二つの小さい美術館の何と大きく、贅沢であったことか。エンピツでペンで墨で作品が吹き、額の裏で作家がもだえているようでした。16歳 関根正二のあるデッサンの隅にやっと判読出来る「芸術は悔悟なり」の文字に私は凝然とたちすくんでいました。床にぎっしり敷き詰められた丸太は地元の人たちが埋め込んだとのこと。碌山美術館も、地元の人々の丹誠なる手作りの美術館です。「二十九万九千余人の力で生まれたりき」と刻まれた本館の扉のプレートはその間の事情を物語っています。生命感溢れる「文覚」、地に伏してもだえる「絶望」、永遠の生命に輝く「女」など、あまりにも短い守衛の全生涯の結晶が、一見教会と見まごう館内の自然採光の中で、清冽に息づいていました。一面ガラス張りの外壁にアルプスを映し出そうとする発想に度胆を抜かれた日本浮世絵博物館では菊川英山の特別展が開かれていました。少しでも二点でも、広重や北斎や歌麿のオリジナルを観賞したかったというのが率直な感想です。蓼科高原の松林に点在する白樺が濃くなるあたり、ローランサン美術館が突如現出します。何故にこの地に、何故なる情念につき動かされてこの美術館が設立されたのか。青春白樺美術館は、今度の旅のハイライトの一つでした。セザンヌやルオー、梅原や岸田の作品が、大きな窓からの柔らか

な高原の光の中に、余りにも無雑作に展示されているのが驚きでした。それにしても展示作品の豪華さのわりにはどことなく統一性に欠けているように思われてなりません。「白樺派」が本来持っているリベラリズムの分散主義に根ざすものなのか。地元の企業家の手になる瀟洒な美術館が諏訪湖畔にあります。北沢美術館とハーモ美術館です。前者はアールヌーボオのガラス工芸と60年以降の日本画家の作品、後者はルソーなど「素朴派」の作品を中心にマチス、ルオーなどの作品を常設展示しています。とくにエミール・ガレ終生の名作「ひとと茸ランプ」によせる北沢美術館のおもい入れはすごい。特別展示室の四隅にガラスを配して、ガレ未完の作品への追想をイメージしたとか。故国フランスでもなかなか見ることが出来ないコレクションにすっかり酔った私には、二階の現代日本画の巨匠の作品も色あせて見えました。点々と連なるブドウ畑、八ヶ岳、南アルプスなどの遠望、あくまで澄明な光と陰、甲府の田園風景は、フランスのバルビゾン村そのものです。なぜ甲府にミレーなのかという疑問に率直に納得できる美術館が山梨県立美術館です。余りにも多くの賛辞がこの美術館によせられています。ロンドンの作品群が語りかける岐阜県立美術館、ポロックやミロが躍動する富山県立美術館など、地方の公立美術館が、壮大な視野と、緻密な見通しと、大胆な運用で注目を集め、成功を収めている姿は実にうれしい限りで、北海道の美術館の歩みも着実に前進している筈です。展示室を出て、勧められるままに二階のロビーの大きな窓に目をやると、前庭のヘンリー・ムーアのブロンズ「四つに分かれて横たわる人体」の向こうに富士山がくっきりと姿を見せていました。まるで今回の美術の旅の素晴らしさを祝福してくれているようでした。



信濃デッサン館

心のハードル



門馬よ宇子

ふと老いた自分の年を淋しく感じた時に真の幸を感じる時は何時なんだろうかと思うことがある。

それは人間が終焉を迎える時かもしれない。あとの心配もなく、これまでの年を重ねて歩いてきた悲しくつらかったことも清算でき満足を感じた時ではないかと思う。

人それぞれの運命の中で環境の違いはあっても心は平等に与えられ、その心を貧しくも豊かにもさせることは自分自身である。全ての物に愛の心を育てる努力と、その人の価値観で自分の生きる目的を思考し、見失うことなく持ち続けることが幸につながるのだと思う。

今、私もほんとうの幸を求め始めている。夢と希望の解放された空想の世界を自由に精いっぱい生きたいと思うし、そのことが心の宇宙をテーマに設定して造形を描き始めた理由かもしれない、貴重な毎日の時間と現在生かされている喜びに感謝して老いることも孤独も又楽しいと思える第二の人生を送りたいものと思っている。

私の芸術的才能



安藤 英征

私には芸術的才能が無いと思っている。現在中学校で芸術・技術といっている時間は以前は図工と言っていた。私は絵と習字が大の苦手である。工作は得意だったが当時は設備が無いためか学校での授業は無く、もっぱら家庭で本立てや、塵取りを作っ

て提出するだけだった。だから絵の時間になると先生の目を盗んでは友人に筆を加えてもらい、習字はいつも墨をすってばかりいた。しかもあ

ゴールのないスタート



森田 修子

人間は行動することが生きていく証である。充実した毎日を送ることが人間としての義務であると数年前高島屋東京店での「宇野千代展」が見られなかったことから「おはん」に初まり晩年の作品「生きる幸福、老いる幸福」を読みかけていた最終報が流れた。

何才になっても前向きに生きる人生の達人が95歳で出したこの作品からも広がる未来が感じられて60歳の我が心がうごめく。もし平均寿命まで生かせてもらうようなことになる

とまだ二十有余年、第二の人生これからいくつスタートがされるかと。そろそろ人生のゴールに向けて準備することがある筈なのに何故かスタートを切る心が心地良い。好奇心と感動の交錯の日々が心地良いのである。

私と絵



中村 宣子

静寂の中に佇んで観る絵に感動し、思いがけず銀行やホテルのロビーで見かける絵には、どこかであったような懐かしさを覚え、また近所の喫茶店の壁のタイルに描かれた絵にも、何か不思議な魅力にひかれ、これも私の好きな場のひとつなのです。

私が、絵を好きになったのは、きつと幼い頃、いつも身近にあった絵にいつの間にか影響されたからだと思われます。それは、父の姪が、その当時としてはまだ珍しかった油絵を趣味として、主に静物を題材にした作品を、我が家の玄関を入るとよく見える壁に飾ってくれていたから

です。季節の移り変わりとともに、額縁の中も変わり、花や果物など、幼心を和ませてくれたその色彩の美しさは、今でもはっきりと記憶しております。

この年上の従姉の薫陶を受けた私ですが、ついにお絵かきの城を脱すこともできずに歳月が去りました。せめてこの先は、絵のある場を求めて足を運びたいと思っております。

情報コーナー.....

新役員の紹介

本年度は役員改選に当たり、総会において役員の選任が承認されましたので、紹介します。

会 長	武井 正直	理 事	浦田 久	理 事	相馬 久子
副 会 長	木路毛五郎	”	植村 敏	”	谷 貴子
副 会 長	鈴木 英二	”	木内 和博	”	高橋 英雄
専 務 理 事	小川 亨	”	木村 和男	”	堂垣内香千枝
”	有坂 妙子	”	小杉八千代	”	八木 一郎
”	阿部 三恵	”	小林 敬明 (新任)	”	和田 壬三
”	安念 正義	”	斎藤 一郎	監 事	馬場 昭
”	今井 リツ	”	繁富 文承	”	大萱生 明
”	伊坂 重孝	”	杉本 拓	※秋山理事、前田理事が退任されました。	
”	石川 浩 (新任)	”	杉本 互 (新任)		
”	岩田 泰	”	関川 節子		

新入会員の紹介

ご入会ありがとうございました (平成8年1月~平成8年6月)

1月	丹 藤	琴 美	深川市	小田原	なほみ	札幌市	佐 野	須美子	札幌市	水 野	和加子	札幌市
佐 藤	小 銭	恵 子	札幌市	村 上	玲 子	”	安 田	利 子	”	永 吉	晶 子	札幌市
永 田	小 多	葉 子	”	本 新	ち は	”	岡 中	祥 子	”	上 大	章 純	札幌市
石 田	永 多	多 子	”	森 田	は る	”	三 浦	惠 子	石狩町	大 大	純 道	”
宮 川	宮 晶	千 子	”	八 島	子 子	”	趙 酒	弓 子	札幌市	6月	屋 のり	札幌市
岸 崎	宮 千	克 子	”	大 喜	聖 子	江別市	神 谷	英 和	”	嘉 山	本 藤	”
堀 本	崎 宮	ぐ み	”	喜 内	名 子	札幌市	野 善	和 善	旭川市	山 佐	昌 子	寿都町
池 田	田 美	智 子	”	佐 木	節 子	江別市	大 須	順 子	札幌市	伊 神	藤 谷	札幌市
2月	高 市	昭 子	札幌市	西 浦	フ ジ	”	遠 高	洋 エ	”	原 久	留 美	函館市
篠 田	田 典	紀 子	札幌市	岩 佐	テ ル	小樽市	高 高	京 子	”	佐 久	史 弘	札幌市
飯 田	美 英	子 子	札幌市	本 井	ル フ	札幌市	大 大	祐 健	”	牧 野	史 弘	”
中 山	山 巴	子 子	”	本 井	久 美	”	吉 崎	光 子	札幌市	横 野	道 子	江別市
榊 佐	山 容	子 子	”	古 屋	節 子	”	金 谷	文 枝	当別町	野 野	智 て	札幌市
朝 々	倉 小	夜 子	”	南 部	優 子	”	堀 川	美 子	札幌市	神 田	和 子	”
加 地	地 春	枝 子	”	市 北	齊 子	”	竹 本	め 子	広島町	河 羽	雪 子	”
中 森	田 宣	子 子	”	津 谷	紀 雅	”	稲 長	千 子	札幌市	秋 野	雪 子	”
鎌 伊	田 康	正 子	江別市	井 上	恵 子	札幌市	根 元	聡 彦	”	横 山	惠 子	”
渡 鈴	藤 麻	美 子	札幌市	村 畑	子 子	札幌市	夏 中	見 野	”	岩 崎	紀 子	”
吉 渡	木 淑	子 子	”	大 白	幹 子	”	栗 小	原 朝	”	野 本	千 子	”
菊 早	田 辺	智 子	余市町	尾 中	尚 子	”	小 小	林 口	”	渡 野	昌 子	”
中 加	坂 地	子 子	札幌市	林 藤	崎 子	”	出 春	木 太	”	石 杉	敏 子	苫小牧市
赤 池	川 賀	子 子	札幌市	藤 藤	加 子	”	西 西	本 村	”	本 本	仁 子	札幌市
田 田	賀 敏	子 子	”	藤 藤	道 子	”	田 渡	村 渡	”	野 野	美 子	”
庄 田	川 昭	子 子	”	藤 藤	清 子	”	前 前	川 川	”	下 島	裕 子	”
新 川	田 睦	子 子	”	森 和	和 子	”	福 福	富 富	”	福 福	美 子	”

平成8年度総会開かれる

6月7日(金)午後5時から、当館の講堂で総会が開催された。7年度の事業報告・決算報告、8年度の事業計画と収支予算が審議、承認された。

続いて、本会の愛称「アルテピア」の決定報告と、本会の創立20周年記念事業の中間報告がなされた。

また、7年度の特別展の美術館入場者は、355,000人を数えたが、団体が主催する事業への入場者としては極めて高い数字である。



落語で楽しんだ つどい'96

総会に引き続き美術館のロビーで行われた第14回“会員のつどい”では、乾杯と出席の作家紹介の後、パーティーに移った。

ボランティアの事業部の企画による北大と教育大の落語研究会の落語二題を楽しみながら、131名の参加者で交流のひとつときを過ごした。

来年度は、ボランティアを始めとする多くの会員が集う場となってほしいと願いながら散会した。



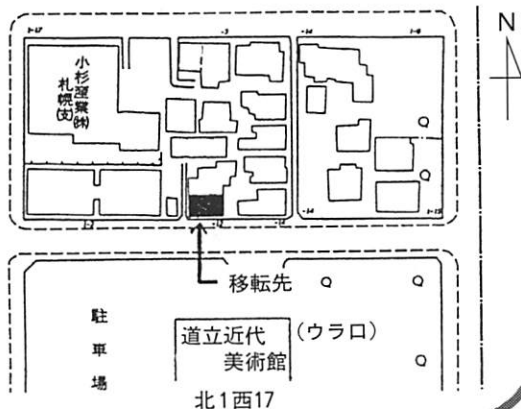
「事務局移転のお知らせ」

現在、本会には176人の方々がボランティア活動をされていますが、ちなみに、昨年のボランティア活動に参加された方は延べ約6,500人にもなりました。

しかし、それらの方々の休憩室は現状では僅か9.9㎡(約3坪)ほどしかありません。加えて事務局も狭隘で、それに来年の本会創立20周年記念事業の準備と、実施のための非常勤職員の勤務スペースも確保しなければならないので、以前から他に適当な場所がないのかと探していたところ、別図のように現在の場所から目と鼻の先の所に賃貸事務所が見つかりました。早速手続きをして6月28日引越しました。

今までどおりとはいきませんが、当近代美術館の裏門から10mも離れておりませんし、電話番号も変わりませんので関係者一同ひとまず安心と言うところ

です。もちろん事務局の移転跡は、ボランティアの方々の休憩室、打ち合わせ室になります。新事務所は前のと比べ決して広くはありませんが、会議室も用意できました。何かと工夫をしながらも皆様が気軽に入りにできる事務所にして行こうと思っております。機会を見ても立ち寄り戴ければ幸いに存じます。



あなたへ届けたい

自然の中でひっそり咲いている草花、そして小鳥たちのんびり観察すること、ありますか？

野の花、小鳥を描いた手ずり版画の商品をそろえました。

(協力会売店)



〈商品紹介〉

花カード(便箋つき封筒)	250円
しおりセット(3枚)	600円
ハガキセット	
北の鳥たち(5枚)	1,300円
北の花(//)	1,400円
ハガキ(1枚) 180円・和紙(1枚) 200円	